

# 病児デイケア施設の 運営に関する調査研究

藤本 保<sup>1)</sup> 谷 整樹<sup>2)</sup> 庄司順一<sup>3)</sup> 帆足英一<sup>4)</sup>

## 要約：

本研究においては、初年度の基礎的調査として既存の病児保育施設の施設構造、平成4年度における利用実態、病児デイケア施設の運営の三つの課題について検討を行った。

病児デイケア施設の施設構造については、既存の14施設の見取り図等を検討し、病児デイケア機能を有効に活用できるモデル設計図並びに設備、備品等について検討した結果を報告した。

平成4年度における利用実態については、平成4年度当初から開設していた15施設を対象に調査し、年間の利用実績としては14,934名、医療機関併設型にて約5割の実績があり、利用の季節的変動も認められた。

施設の運営面については、利用料、登録料等の事業収益、人件費等運営費について詳細な調査を行い、運営費に占める事業収益、人件費の占める比率や利用児一人当たりの運営単価等について検討を行った。

見出し語：病児デイケア 病児保育

## はじめに

母親の就労により児を保育所に措置している際に、その児が感冒等のありふれた疾病に罹患すると、母親は仕事を休んで子どもの看病をしなければならない実態にある。その結果、母親の就労状態は不安定となったり、母親が休めないときには父親、祖父母、友人あるいはベビーシッターに依頼したり、ベビーホテルに預けなければならないことも少なくない。このような二重保育、三重保育は、結果として児の精神的な不安を嵩じ、あるいは原疾患を悪化してしまうこともある。このことが、結果的に就労している母親の妊娠、出産、子育ての意欲を減退させ、少産少子化を促進させる一つの要因としても指摘されている。

このような保育所に預けられている子どもが病気に罹患した際に、その病児を専門的に保育する病児保育室は、既に10数年前より発足し、現在では20施設を越えている状況にある。

厚生省においては、就労と子育ての両立を支援する

病児デイケアの実態を明らかにする目的で、平成3～4年度にかけて心身障害研究課題として「小児有病児ケアに関する研究」班（分担研究者：帆足英一）を発足させ、「病児デイケアのあり方についての研究」を報告している。

その後、平成4年度から厚生省においては、「病児デイケア・パイロット事業」を乳児院を中心に7施設を対象として開始し、平成6年度においては、「病後児デイサービスモデル事業」へと発展させようとしている。

本研究においては、これまでの研究過程において十分に検討されてこなかった以下の3点を中心に検討を行ったので報告する。

検討課題：

- 1) 病児デイケア施設の施設構造の検討
- 2) 病児デイケア施設の利用実態
- 3) 病児デイケア施設の運営について

1) 藤本小児病院 2) 寺田町子ども診療所 3) 日本総合愛育研究所 4) 東京都立母子保健院小児科

# 1. 病児デイケア施設の 施設構造の検討

## 1. 病児デイケア施設の設計図等の検討

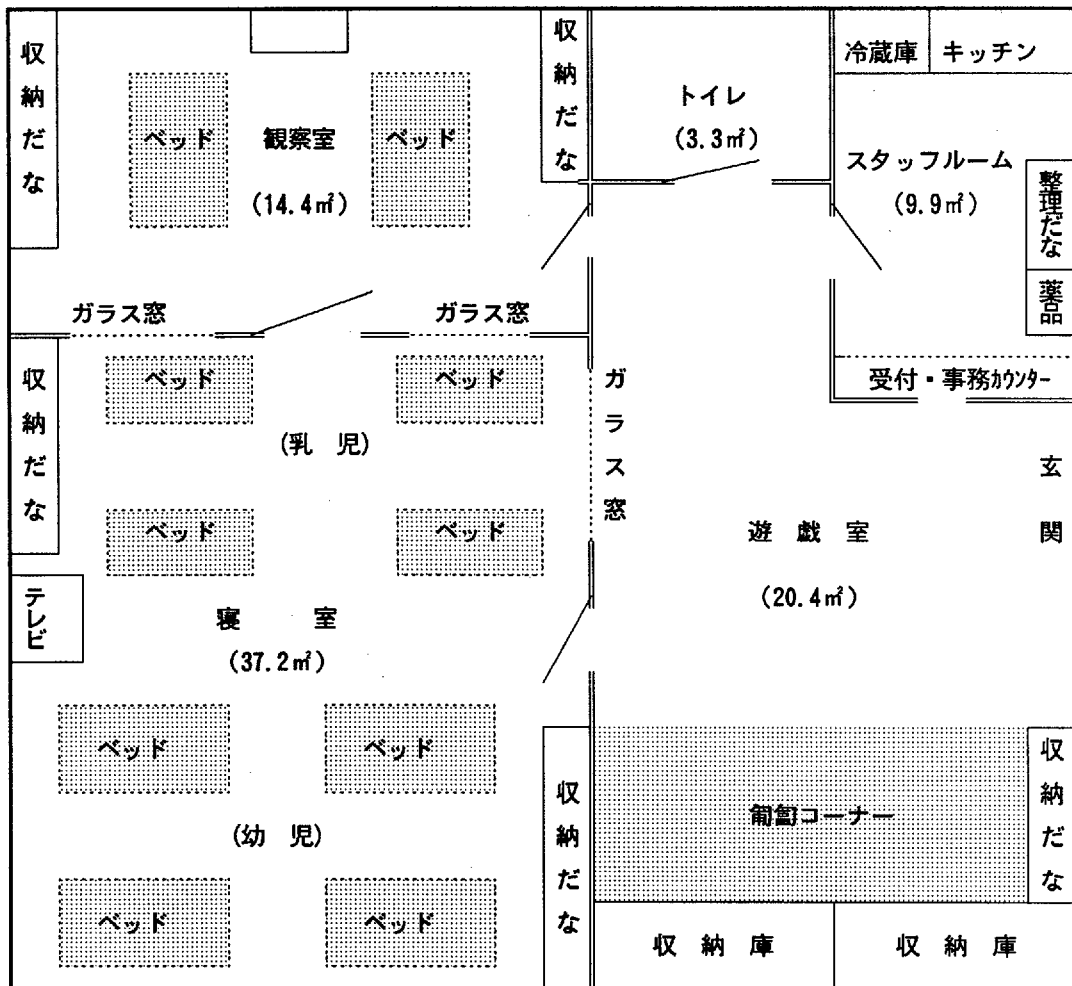
既存の病児デイケア施設の設計図、付帯設備等について

て調査を行った。その結果は、資料①～⑭にて掲載した。

既存の病児デイケア施設は、その実質的な機能から、医療機関併設型、単独型、保育所型の三つのタイプに分類される。資料①～⑦が医療機関併設型、⑧～⑩が単独型、⑪～⑭が保育所型の設計図等である。

これらのハード面の実態を参考に、保育所や乳児院における基準面積等を参考に、定床8名と仮定した場合の病児デイケア施設のモデル的な基準面積を積算し、そのもとで、病児デイケア施設のモデル設計図（案）を検討した結果を下図に示した。

病児デイケア施設のモデル設計図（案）（定床8名）



尚、本モデル設計図並びに付帯設備、備品等については、その検討の一部を日本総合愛育研究所「病児保育のニーズとその対応に関する研究班」にて報告し、平成5

年度「病児デイケア・パイロット事業調査研究中間報告」に掲載されていることを付記する。

## 2. 病児デイケア施設の構成

—モデル設計図(案)参照—

病児デイケア施設における施設の構成としては、以下の要素を整備することが望ましい。

### 1) 寝室

病状に対応してベッド上の安静を必要としたり、病児(病後児)であるため午前、午後共に通常より長い午睡を必要とする関係で、定員に対応した寝室(ベッドルーム)が必要とされる。

また寝室では、ベッドとベッドとの間に空間を設け、直接的な飛沫感染(二次感染)の機会を少なくするように配慮することが必要とされる。

寝室と、後述する観察室、あるいは遊戯室(匍匐コーナーを含む)との境界部分には、ガラス窓を挿入し、スタッフがどの場所に居ても各室の視界を遮らないように配慮することが必要と思われる。加えて、飛散防止シールをガラスに貼付、あるいは強化ガラス(鋼線入り)やプラスチックガラスを使用して、遊具等での破損事故を防止する配慮も必要である。

### 2) 遊戯室

回復期にある児の場合には、室内安静といって室内で静かな遊びを展開したり、室内保育といって室内で比較的活発な遊びで過ごすことが必要な場合も少なくない。従って遊戯室(プレイルーム)の整備が必要となる。乳児の場合には、匍匐(這い這い)できるコーナーもプレイルームの一角に用意することも必要となる。

### 3) 観察室

回復期に入室したと思われても、発熱の再燃等病状が悪化した際には、観察室にて経過をみる必要がある。一方、手足口病や伝染性紅斑(りんご病)等学校保健法では隔離対象とはなっていないありふれた感染性疾患であっても、他児への二次感染の恐れがある場合には、観察室(隔離室)にて保育する必要がある。

この観察室は、病状によっては、必ずしもベッド上保育に限定されない場合もあり、床上保育を含めた保育面積を考慮する必要がある。

### 4) トイレ

トイレット・トレーニング中、あるいは排泄が自立した幼児の場合には、幼児用のトイレが必要とされる。一方、スタッフや保護者が利用することも考慮して成人用のトイレも整備する必要がある。

### 5) 事務室

事前登録や入室予約等の受付、書類や救急薬品等の保管、キッチンセットや冷蔵庫、電子レンジ等の設置、そして職員の休憩室等を兼ねる事務室の設置が必要である。

## 3. 施設規模(面積)の積算

病児デイケア事業の定員を8名(乳児4人、幼児4人)と仮定した場合の施設規模・面積については、乳児院並びに保育所における施設整備基準を参考に、病児デイケア事業の特殊性を考慮した以下の積算根拠に基づいて、最低 85.2 m<sup>2</sup>(一人当たり:10.7m<sup>2</sup>)が必要と考えられる。

以下にその積算根拠と各室の必要面積(案)を示す。

### 1) 寝室

#### ●乳児(乳児院基準面積のもとに積算)

乳児は、寝室ではベッドを使用することが多いが、そのサイズは乳幼児兼用が望ましく、乳児院の基準面積の30%増として積算するのが望ましい。

$$99.02 \text{ m}^2 / 30 \text{ 人} = 3.30 \text{ m}^2 \text{ (一人当たり)}$$

$$3.30 \times 130\% = 4.29 \text{ m}^2 \text{ (30\%増)}$$

$$4.29 \text{ m}^2 \times 4 \text{ 人} = 17.2 \text{ m}^2 \text{ (4床分)}$$

#### ●幼児(保育所基準面積のもとに積算)

幼児の場合は、保育所における寝室の基準面積で積算する。

$$30.00 \text{ m}^2 / 6 \text{ 人} = 5.00 \text{ m}^2 \text{ (一人当たり)}$$

$$5.00 \text{ m}^2 \times 4 \text{ 人} = 20.0 \text{ m}^2 \text{ (4床分)}$$

#### ●全体 17.2m<sup>2</sup> + 20.0 m<sup>2</sup> = 37.2 m<sup>2</sup>

## 2) 遊戯室

- 乳児（乳児院基準面積のもとに積算）  
 $57.20 \text{ m}^2 / 30\text{人} = 1.91 \text{ m}^2$ （一人当たり）  
 $1.91 \text{ m}^2 \times 4\text{人} = 7.64 \text{ m}^2$ （4床分）
- 幼児（保育所基準面積のもとに積算）  
 $171.80 \text{ m}^2 / 54\text{人} = 3.18 \text{ m}^2$ （一人当たり）  
 $3.18 \text{ m}^2 \times 4\text{人} = 12.72 \text{ m}^2$ （4床分）
- 全体  $7.64 \text{ m}^2 + 12.72 \text{ m}^2 = 20.4 \text{ m}^2$

## 3) 観察室

必ずしもベッド上の生活とは限らず、床上での遊び等も考慮されるため、寝室の面積に加えて遊戯室の面積を加算したスペースが必要と考えられる。

- 寝室用スペース（2床分）  
 $37.2 \text{ m}^2 \times 2/8 = 9.3 \text{ m}^2$
- 遊戯室用スペース（2床分）  
 $20.4 \text{ m}^2 \times 2/8 = 5.1 \text{ m}^2$
- 全体  $9.3 \text{ m}^2 + 5.1 \text{ m}^2 = 14.4 \text{ m}^2$

## 4) トイレ

保育所基準面積（0.275 /1人）より積算するが、スタッフ4名分を加算する。

$$0.275 \times (8\text{人} + 4\text{人}) = 3.3 \text{ m}^2$$

## 5) 事務室等

$$9.9 \text{ m}^2$$

## 6) 全体の面積

以上の各室の面積の合計は、 $85.2 \text{ m}^2$ （一人当たり： $10.7 \text{ m}^2$ ）となる。

その他、設計との関係で玄関、廊下、沐浴室等も整備することを考慮することが望ましい。

## 4. 設備・備品等

以下に、病児デイケア事業を行うに当たって必要な設備、備品等として必要な項目を列挙する。

## 1) 付帯設備

- 冷暖房設備
- 換気装置（熱交換式吸排気装置：ロスナイ等）  
感染症の伝播を防止する目的で、観察室・寝室に設置することが望ましい。
- 簡易キッチンセット
- 湯沸かし器（吸排気式）  
ガスコンロの使用は事故防止のため極力避けることが望ましい。
- その他

## 2) 備品

- 電子レンジ
- 冷蔵庫
- 洗濯機・乾燥機
- 視聴覚器機（テレビ・ビデオ・ラジカセ）
- 薬品棚
- MRSA対応自動噴霧消毒装置
- アルミ製柵ベッド  
乳幼児用5台・幼児用5台  
⇒寝室8台・観察室2台
- 幼児用机・椅子(4セット)
- 乳児用トッター(2台)
- 乳児用机付トッター(2台)
- 事務机(両袖・引出し付)・椅子
- 事務ロッカー
- 電話・ファックス
- 応接セット(面接・休憩兼用)
- その他

## 3) 消耗備品

- 寝具セット  
ベッドマット・パット・シーツ・毛布・枕・掛け蒲団 ⇒ 最低10セット
- 交換リネン類  
シーツ・パット・枕カバー・タオルケット  
バスタオル・タオル等  
⇒ 短期にローテーションが必要なため50セット分必要
- 乳児・幼児用玩具、保育教材  
⇒ 玩具・絵本・折紙・クレヨン  
画用紙等
- 乳幼児用食器（哺乳瓶等含む）
- その他

## II. 病児デイケア施設の 利用実態

本調査は、病児保育事業を行っている既存の全国15施設を対象として、平成4年度における利用状況、とくに利用の季節的な変動の有無や病児保育室のタイプによる利用状況について検討するための調査を行った。

### 1. 対象

病児保育施設は、平成6年4月の時点で全国に22施設あり、デイケア事業を展開している。その機能、実施主体等を考慮すると、診療所・病院などの医療機関に併設された「医療機関併設型」、嘱託医との密接な連携のもとに病児のみを専門に受け入れる「単独型」並びに保育所に病児保育室を併設している「保育所型」とに分類される。

厚生省においては、病児デイケア・パイロット事業を平成4～5年度に実施したが、このパイロットスタディ対象施設に※印を付す。

#### i) 医療機関併設型

- \*枚方病児保育室（保坂小児科医院）
- \*青森病児一時保育室（小笠原医院）
- \*枚方市病児保育室（枚方市民病院）
- \*子ども診療所病児保育室  
（寺田町子ども診療所）※
- \*すこやか病児保育室（野沢医院）
- \*保育園キッドワールド（藤本小児病院）
- \*山陽ちびっこ園（青木内科小児科医院）
- \*アリス保育園（中野病院）  
東京都立母子保健院（乳児院）  
（平成5年2月開設）※
- 金沢聖霊病院（乳児院）  
（平成4年12月開設）※
- 松江赤十字病院（乳児院）  
（平成4年12月開設）※
- 彩貴病児保育室（平成5年4月開設）

#### ii) 単独型

- \*病気明けつくし保育室（寝屋川）
- \*さくらんぼ病児保育室
- \*堺病気明け保育所
- \*なかよし園※  
福岡乳児院（平成4年9月開設）※

#### iii) 保育所型

- \*病気予後保育室バンビ
- \*病気明け保育室どんぐり
- \*病気保育室のんたんルーム  
大阪四恩学園（乳児院・保育所）  
（平成4年11月開設）※
- 佐世保乳児保育園病児保育室  
（平成5年7月開設）

今回の調査対象施設は、平成4年4月1日までに事業を開始していた既存の病児保育室15施設（※印）とし、平成5年3月31日までの1年間に利用した月毎の件数（開設日数・扱い件数・延べ在室件数）について調査を行った。

### 2. 施設毎の月別延べ取り扱い件数

各施設毎に月毎の延べ在室件数を次表に示した。平成4年度の延べ在室数は、14,934名であった。平成4年度後半から開設された病児デイケア・パイロット事業対象施設（乳児院型：金沢精霊乳児院、四恩学園乳児院、福岡乳児院、松江赤十字病院乳児院、東京都立母子保健院乳児院）並びに平成5年に開設された彩貴病児保育室、佐世保乳児保育園病児保育室については、調査対象から除外した。

年間の利用児が2千名以上の施設は寝屋川つくし保育室、キッドワールド、なかよし園の3施設、千名以上の施設が枚方病児保育室、青森病児一時保育室の2室、五百名以上の施設が病気予後保育室バンビ、さくらんぼ病児保育室、枚方市民病院病児保育室、狛江すこやか病児保育室の4室であった。

表1 施設別月別延べ在室数の推移 (平成4年度)

施設名 (月)	4	5	6	7	8	9	10	11	12
寝屋川つくし	292	192	237	235	115	182	189	199	214
キッドワールド	149	143	141	202	150	135	213	190	277
なかよし園	267	145	182	156	90	120	126	149	190
枚方病児保育室	129	108	165	159	96	118	136	123	154
青森病児一時保育	119	100	175	158	80	102	163	146	156
バンビ	81	94	62	105	55	102	87	70	98
さくらんぼ	104	64	86	75	81	68	29	32	37
枚方市立病児保育	47	43	60	79	72	68	36	46	66
狛江すこやか	31	20	29	43	41	70	31	28	65
山陽ちびっこ	15	37	60	31	16	29	26	7	31
のんたん	22	17	28	19	15	10	28	34	21
中野ども穢 アリス園	17	16	13	18	12	6	15	18	25
堺病児明け	25	11	20	30	9	5	24	3	9
寺田町子ども園	12	14	16	8	0	8	8	10	9
どんぐり	1	8	4	0	0	2	5	7	2
合計	1,311	1,012	1,278	1,318	832	1,025	1,116	1,062	1,354

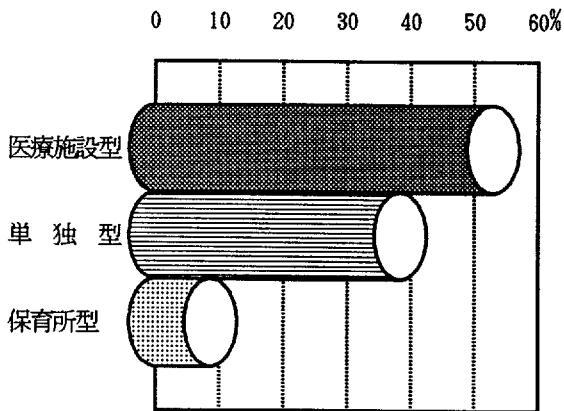
施設名 (月)	1	2	3	計
寝屋川つくし	269	311	257	2,692
キッドワールド	359	302	360	2,621
なかよし園	165	208	225	2,023
枚方病児保育室	156	168	133	1,645
青森病児一時保育	183	117	143	1,642
バンビ	69	68	72	963
さくらんぼ	88	99	71	834
枚方市立病児保育	60	73	93	743
狛江すこやか	35	109	56	558
山陽ちびっこ	28	34	43	357
のんたん	21	41	27	283
中野ども穢 アリス園	36	19	27	222
堺病児明け	6	16	19	177
寺田町子ども園	23	13	9	130
どんぐり	4	6	5	44
合計	1,502	1,584	1,540	14,934

### 3. 施設機能別取り扱い件数

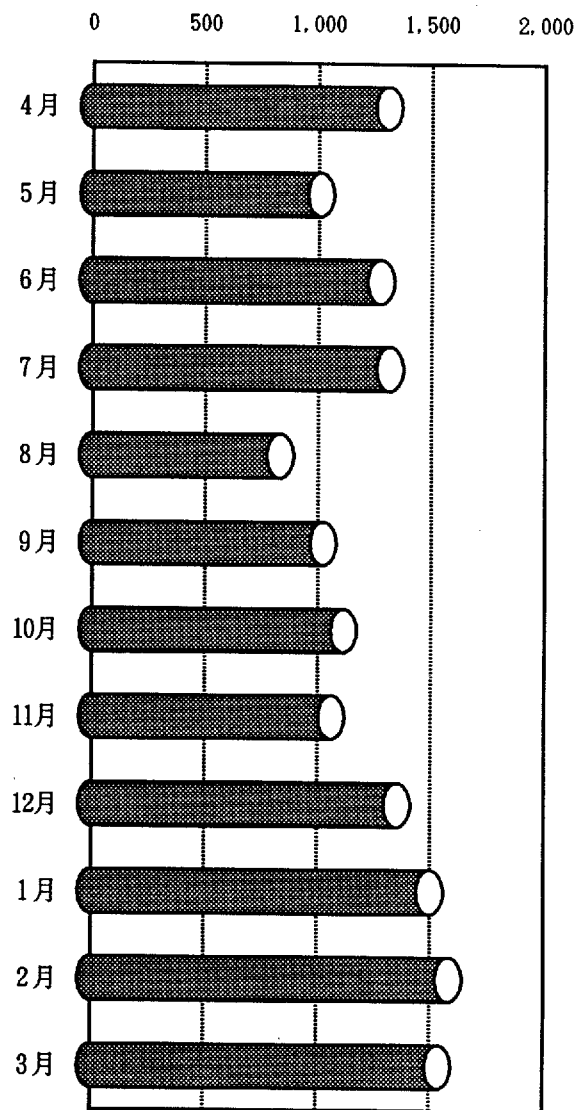
この15施設における述べ14,934名の対象児について、医療施設型、単独型、保育所型に分けて年間の取り扱い件数を次図に示した。医療施設型で7,918名(53.0%)と

全体の約半数を占め、次いで単独型で5,726名(38.3%)、保育所型が最も少なく1,290名(8.7%)となっていた。

施設機能別取り扱い件数



月別利用人数 (平成4年度) 人



#### 4. 月別累計延べ在室数の推移

月別の累計利用人数の推移を右図に示した。月平均では1,245名であり、月別の増減をみると、最低月であった8月の832名に対して、最高月の2月は1,584名となっており、最低月は最高月の52.5%にまで減少している。これは、病児デイケアの対象となる感冒等の感染性疾患の季節的な変動をそのまま反映しているものと思われる。

#### 5. 一日平均利用児数と直接処遇スタッフ数

各施設について、一日の平均利用児数と、最低、最高利用児数並びに保母、看護婦といった直接処遇スタッフの配置状況について調べた結果が次頁の表である。

利用児数の平均は、一日3.8名となっており、最高は5.8名、最低は1.8名である。最低利用人数は最高利用人数の31.0%、平均人数は最高人数の65.5%に過ぎないといった不安定な利用実績にあった。

各病児デイケア施設施設の最高利用児数をもってその施設の定員とした場合、年間平均利用児数からみた充足率は65.5%となり、受け入れ定員の34.5%が未充足定員となる。このような稼働実績の不安定さは、すでに述べたありふれた小児疾患の罹患率の季節的変動性によるものであり、本事業にとっては避けることの

できない問題である。

したがって、病児デイケア事業の安定的な運営のためには、定員の34.5分については、休床補償として国、地方自治体からの補助金を受けるか、利用者とその分を含めて負担増を強いて解決するしか道がないことになる。このように、基本的に病児デイケア事業は、小児医療の不採算性を反映して、経営的には極めて困難な事業であり、行政的な施策として位置づけていくことが必要と考えられる。

各施設の一平均利用児数と最低・最高利用児数・直接処遇スタッフ数

施設名 (月)	平均利用児数/日			直接処遇スタッフ構成				医師	その他
	最低	最高	平均	合計	保母		看護婦		
						常勤	兼勤	常勤	兼勤
寝屋川つくし	5.2	13.5	9.1	6	4	2			嘱託
キッドワールド	5.4	15.6	9.5	3	1		2		常勤
なかよし園	3.5	10.3	6.8	5	4			1	協力
枚方病児保育室	4.5	7.3	5.7	6	3	2	1		常勤
青森病児一時保育	3.3	7.9	5.5	3	3				常勤
バンビ	2.4	4.3	3.3	3	1	2			—
さくらんぼ	1.1	5.6	2.8	2	2				常勤 絵パート1
枚方市立病児保育	1.4	3.6	2.5	5	3	1	1		常勤
狛江すこやか	0.8	4.7	1.9	3	2	1			常勤 兼勤1
山陽ちびっこ	0.3	2.3	1.7	2	2				常勤
のんたん	1.2	2.4	1.7		—	—	—	—	—
中野こども園 アリス園	0.3	1.6	0.7	1			1		常勤
堺病気明け	0.2	1.3	0.7	1	1				協力 兼勤1
寺田町子ども園	0.3	1.3	0.6	3	2		1		常勤
平均	1.8	5.8	3.8		3.1				

の施設は、地方自治体からの補助金受託施設  
(パイロット事業費省く)

各病児デイケア施設共に、直接処遇スタッフとしては、保母、看護婦といった正規職員を配置している。平均的なスタッフ配置数としては、平均利用児数 3.8 名（最高利用児数 5.8名）に対して直接処遇スタッフは 3.1名となっており、最高利用児に、ほぼ乳幼児 2 名に対して 1 名のスタッフ配置といった現状にある。

病児デイケア事業は、病児（病後児）を対象とした施設であり、そのケアに当たってはきめ細かい観察や個別的な援助を必要としている。加えて、保育所等と異なり 1～3 日にて退室するというように入れ替わりの激しい事業である。従って、乳幼児 2 名に対して 1 名の直接処遇スタッフを配置することは、必要不可欠な条件と思われる。

看護婦の配置状況を見ると、調査対象の 15 施設の内 6 施設に留まっており、40% の配置率である。

本調査の対象施設を含めて 21 施設についてみると、看護婦の配置施設数は 11 施設となり、52.4% である。

いずれにしても、既存の病児デイケア施設において

は、看護婦の配置状況については、もう少し前向きに検討する必要があるものと思われる。

一方、医師の関わりについてみると、施設関係者が医師である施設も多いが、常勤医、嘱託医、協力医療機関を含めて、医療との連携については、15 施設中 13 施設 (86.7%) において達成されており、調査対象外の施設を含めた 21 施設についてみると、18 施設 (85.7%) において医療機関との連携が実施されていた。

### Ⅲ. 病児デイケア施設の運営について

#### 1. 利用料、登録料の実態

病児デイケア施設における利用料、登録料の実態は次表に示される通りである。



病児デイケア施設の利用料・登録料（平成4年度）

施設名	利用料 / 日	登録料
寝屋川つくし	1,500円（給食費込み）	1,000円/年
枚方病児保育室	3歳未満 900円、3歳以上 700円（給食込み）	1,000円/年
青森病児一時保育	乳児 500円、幼児 400円（給食費込み）	無料
枚方市立病児保育	3歳未満 1,000円、3歳以上 800円（給食費）	無料
狛江すこやか	1,000円（弁当持参）	3,000円
キッドワールド	3歳未満 1,500円、3歳以上 1,000円（給食込み）	入会1万円、年会費1万2千円
なかよし園	1,800円（給食費込み）	各園から5千円~1万円/年
バンビ	600円（給食費込み）	互助会費年5万円~
さくらんぼ	2,800円（給食費 200円）	5,000円/年
山陽ちびっこ	2,000円（給食費込み）	無料
のんたん	—	—
中野こども園 アリ塚園	1,000円（給食費込み）	無料
堺病児明け	4,000円（給食費込み）	5,000円/年
寺田町子ども診療所	3歳未満 700円/時、3歳以上 600円/時（給食費）	無料

■ の施設は、地方自治体からの補助金受託施設  
（パイロット事業費省く）

小児有病児ケアに関する研究班（平成3~4年）による報告書によると、利用料は、自治体等からの補助金を受けている施設においては平均 930円、その他の施設で2930円となっていた。平成4年度における実態は上の表の通りである。同様の傾向とあってよいであろう。

補助金を受けていない施設で利用料が低額におさまられている施設においては、入会金、年会費、互助会費等が高額となっている傾向がみられる。

登録料については、無料が5施設、有料の場合には毎年登録を更新する形で徴収している施設が多くみられ、これら、経営の安定化のために必要な措置と考えられた。

2. 各施設における経営状態

各病児デイケア施設における運営費に占める人件費の比率をみると、最高97.4%、最低61.8%であり、全体として運営費に占める人件費の比率は極めて高いのが特徴といえる。

利用料、登録料等の事業収益の占める比率をみると最高62.0%、最低1.4%であった。利用料の事業運営に占める比率は全体として極めて低い結果であった。

各病児保育室の人員費・利用料・一人当たり経費

	人員費の比率	利用料の比率	必要経費/日	赤字額
寝屋川つくし	68.8	24.1	7,800	0
枚方病児保育室	73.9	7.1	13,300	0
青森病児一時保育	78.0	6.8	6,500	0
枚方市立病児保育	97.3	3.2	29,300	約2100万円
狛江すこやか	89.4	14.5	12,000	約50万円
キッドワールド	82.3	1.4	3,200	約820万円
なかよし園	61.8	24.2	7,700	約1180万円
バンビ	97.4	7.0	8,000	0
さくらんぼ	68.0	62.0	7,600	0
山陽ちびっこ	—	—	—	—
のんたん	—	—	—	—
中野こども園 アリ塚園	64.3	—	38,700	約860万円
堺病児明け	78.2	31.2	18,000	約35万円
寺田町子ども診療所	61.9	14.4	33,400	約40万円
どんぐり	90.2	47.8	20,200	0

■ は補助金受領施設  
寺田町子ども診療所は、パイロット事業費助成

乳幼児1名を一日預かる際に必要とされる経費について算出すると、様々な結果となっている。自治体からの補助を受けている施設についても、利用料や稼働率等との関係で、一日6,500~13,300円を要している。最も経費が高くなっている中野こども病院アリス保育園の場合には、利用料の徴収等事業収益がないためと思われ、寺田町子ども診療所の場合には年間の利用件数が少ないこと、枚方市立病児保育室では公務員給与で人件費が高く、また利用件数もそれほど多くなかったために高い単価となったものと考えられる。

いずれにしても、実際の利用料、登録料等の事業収益と比較して一人一日当たりの必要経費は非常に高く、この事業を受益者負担の原則で運営するには高負担となりすぎるといった問題がある。

一方、医療機関併設の施設においては、かなりの赤字が出ており、単独型の施設の一部においても巨額な赤字を抱えている実態が明らかとなった。医療機関においては、病児デイケア事業が、法人の非収益的事業の一つとしての保健事業として認められるならば、法人会計のもとに処理が可能であり、この点についての大蔵省の理解を期待するところである。

一方、地方自治体等からの補助金を受けている4施設について、運営費の詳細について紹介すると下表の通りである。全体の運営費に占める補助金の占める比率は、65.9%から93.2%まで様々であった。A~Dの4施設で比較してみると、利用児一人当たりの経費は、A、B施設とC、D施設と比較すると大きく異なっている。その背景を検討すると様々な要因があり、一概に論じきれない。

補助金を受けている4施設の事業費の構成等

	A	B	C	D
人件費	8,244,000	13,734,000	5,981,000	16,220,000
嘱託医手当	36,000	660,000		984,000
施設長手当	108,000			
光熱費	159,000	384,000	123,000	243,000
通信費	46,000	100,000	7,000	116,000
その他委託料	228,000			
賃貸料	1,008,000	605,000		1,962,000
保育材料費	61,000	101,000	214,000	34,000
保健衛生費	66,000	107,000	24,000	42,000
食品材料費	372,000	1,394,000		119,000
研修費	15,000	109,000	60,000	102,000
職員厚生費	5,000		28,000	24,000
備品費	94,000	774,000	235,000	104,000
社会保険等	7,000	1,211,000	16,000	1,658,000
その他	303,000	1,754,000		337,000
合計	10,752,000	20,933,000	6,688,000	21,945,000
人件費の比率	78.0%	68.8%	89.4%	73.9%

年間利用人数	1,642人	2,692人	558人	1,645人
経費/日/人	6,500円	7,800円	12,000円	13,300円

利用料等比率	6.8%	24.1%	14.5%	7.1%
補助金比率	93.2%	65.9%	77.6%	92.3%

## おわりに

以上、既存の病児デイケア施設について、施設構造、設備、備品等について検討、平成4年度における利用実態、運営面について調査検討した結果を報告した。

病児デイケア事業は、基本的に子育てと就労の両立を支援する子育て支援事業である。

感冒等のありふれた小児の疾病が季節的な変動性をもって発生することの影響を受けて、病児デイケア事業の利用児数は季節的に増減が激しく、小児医療の不採算性

をそのまま反映して、病児デイケア事業の経営を圧迫しているのが実情といえよう。

そのような観点から国においても、病児デイケア・パイロット事業に引き続いて平成6年度から病後児デイサービスモデル事業をスタートさせる予定にあるが、本格的な事業確立に向けて今後の推移に期待したいところである。

当研究班は、スタートして初年度のものであるが、次年度については、本格的な病児デイケア事業の展開に向けたマニュアル作成を予定しているところである。

資料① 病児デイケア施設平面図等

施設名 枚方病児保育室 (医療施設併設型)

1. 施設

鉄筋平屋部分の1階

2. 施設整備

定員 8人 (生後1カ月～ 9歳)

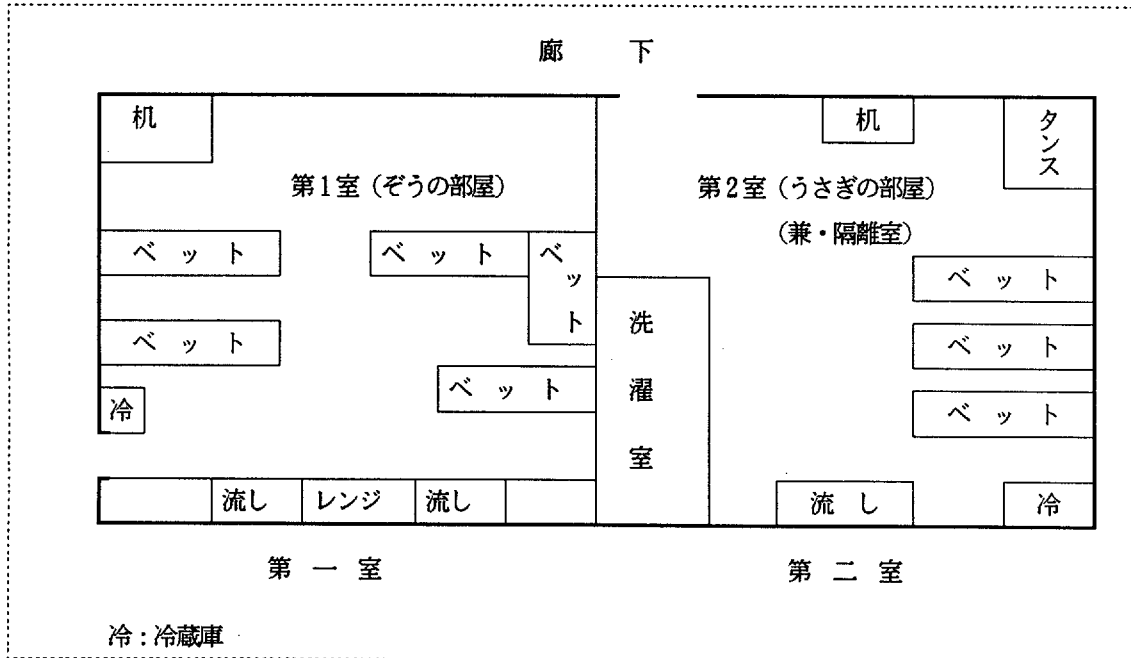
室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	約40㎡	(ナイルム兼用)			
隔離室 トイレ	約40㎡ 診療所と兼用				
合計			約80㎡		

3. 設備整備

①冷暖房

②換気扇

4. 見取り図



資料② 病児デイケア施設平面図等

施設名 青森病児一時保育所 (医療施設併設型)

1. 施設

木造2階建て部分の2階

2. 施設整備

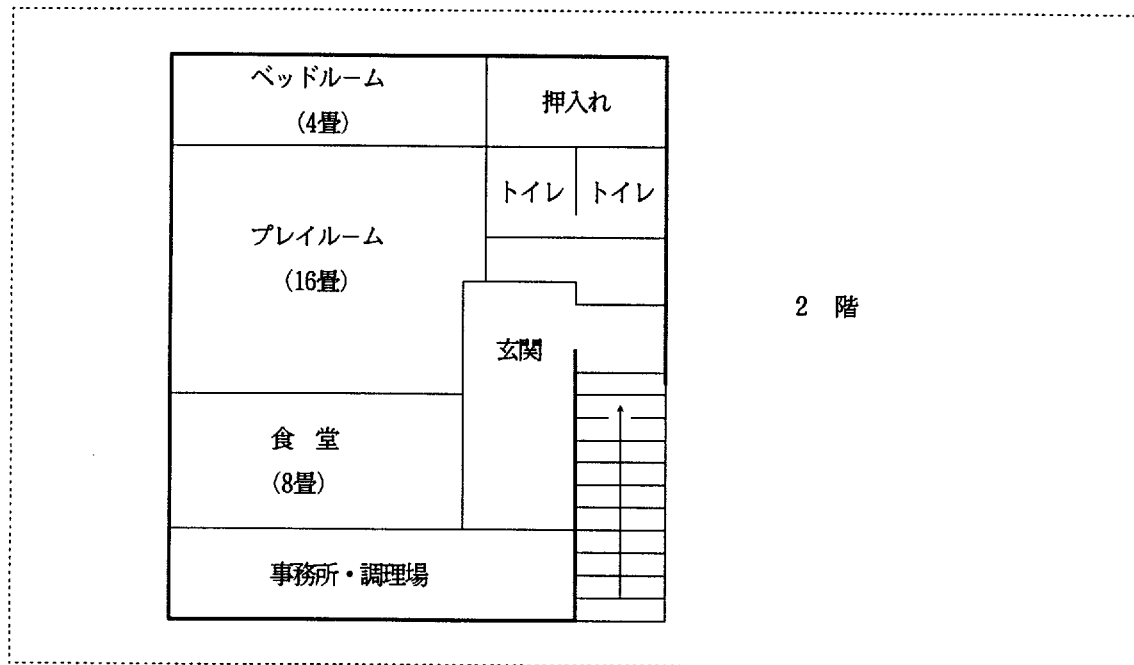
定員10人 (生後3カ月～小学2年)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	和室4畳		事務室	4畳	
プレイルーム	16畳				
食堂	8畳				
調理場					
子ども用トイレ					
職員用トイレ					
合計			62.7㎡		

3. 設備整備

①冷暖房

4. 見取り図



## 資料③

## 病児デイケア施設平面図等

施設名 枚方市立病時保育室 (医療施設併設型)

## 1. 施設

鉄筋2階建て部分の1階

## 2. 施設整備

定員 5人 (生後3カ月～ 6歳)

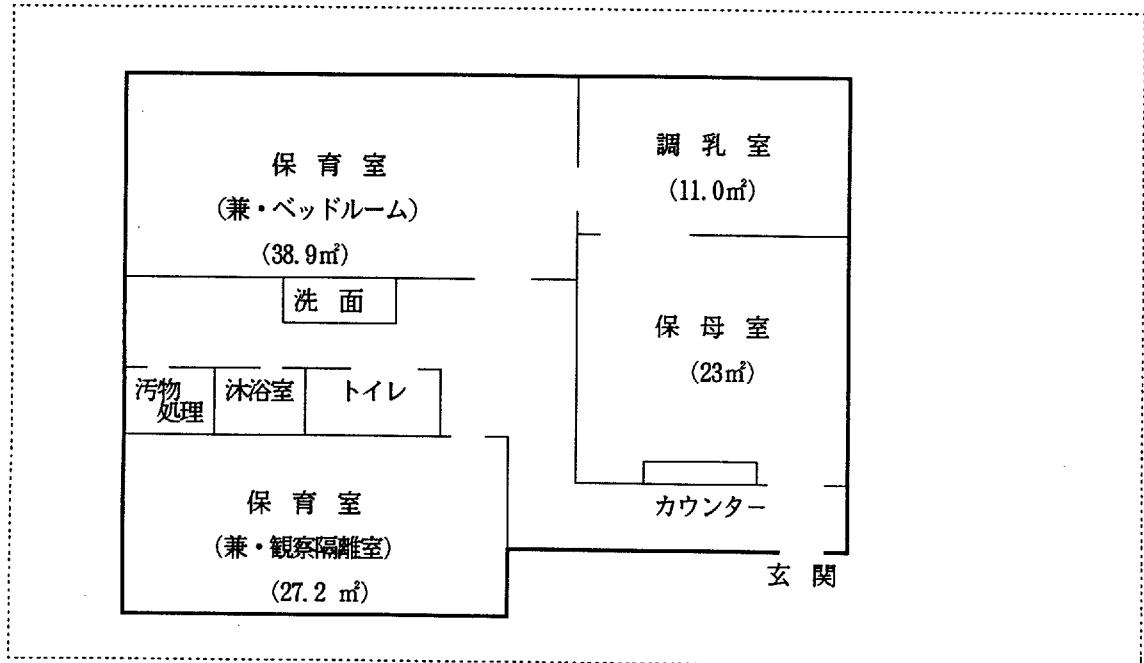
室名	面積	備考	室名	面積	備考
寢室	38.9㎡	(保育室兼用)	湯沸かし 洗濯コーナー		
観察・隔離室	27.2㎡				
調理場	11.0㎡				
子ども用トイレ					
職員用トイレ					
事務室	23.0㎡		合計	130.3㎡	

## 3. 設備整備

①冷暖房

②換気扇

## 4. 見取り図



資料④ 病児デイケア施設平面図等

施設名 山陽ちびっこ園 (医療施設併設型)

1. 施設

鉄筋3階建て部分の3階

2. 施設整備

定員 7人 (生後6カ月～小学5年)

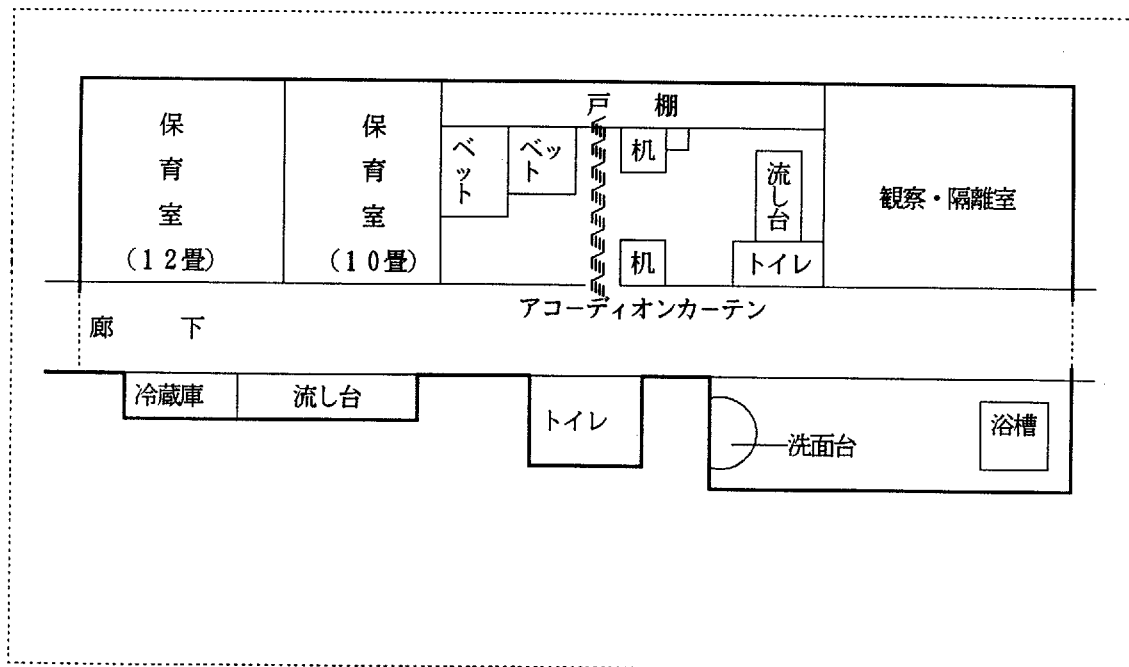
室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室 プレイルーム	計45㎡ 10畳・12畳	その他1室	事務室・調理場等は、診療所と共用		
観察・隔離室					
子ども用トイレ					
職員用トイレ					
沐浴室					
合計			100.㎡		

3. 設備整備

①冷暖房

②換気扇

4. 見取り図



## 資料⑤

## 病児デイケア施設平面図等

施設名 寺田町子ども診療所病児保育室（医療施設併設型）

## 1. 施設

鉄筋3階建て部分の2・3階

## 2. 施設整備

定員8人（生後3カ月～制限なし）（施設規模としては定員35人）

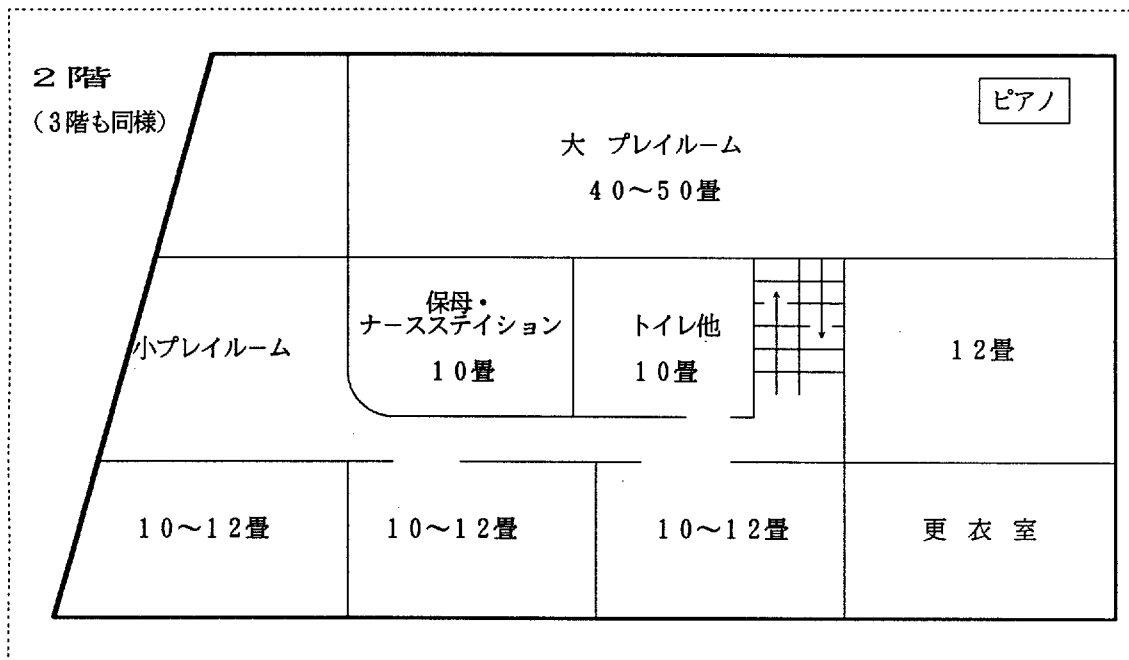
室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	10～12畳×6室		診察室		
プレイルーム	40～50畳×2室				
食堂	12畳				
子ども用トイレ					
職員用トイレ					
事務室	10畳×2室	ナースステーション兼用	合計	270.0㎡	

## 3. 設備整備

①冷暖房

②換気扇

## 4. 見取り図





資料⑥

病児デイケア施設平面図等

施設名 粕江すこやか病児保育室 (医療施設併設型)

1. 施設

鉄筋2階部分の2階

2. 施設整備

定員8人 (生後12カ月～ 6歳)

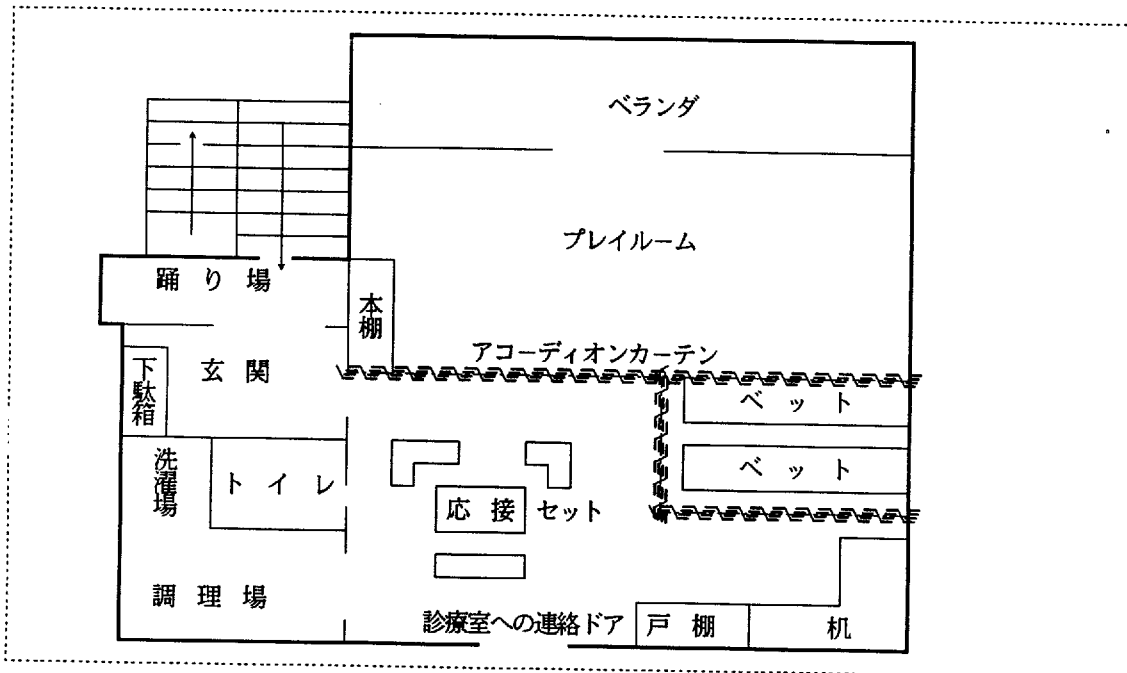
室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	6畳	*食堂兼用	事務室	6畳	
プレイルーム	8畳		園庭		
観察・隔離室	6畳				
子ども用トイレ					
職員用トイレ					
診察室			合計	約36㎡	

3. 設備整備

①冷暖房

②換気扇

4. 見取り図



資料⑦

病児デイケア施設平面図等

施設名 保育園キッドワールド (医療施設併設・保育所併設)

1. 施設

鉄筋2階建て部分の2階

2. 施設整備

定員10人 (生後3カ月～小学3年)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	6畳				
観察・隔離室	2畳				
			合計	132.0㎡	

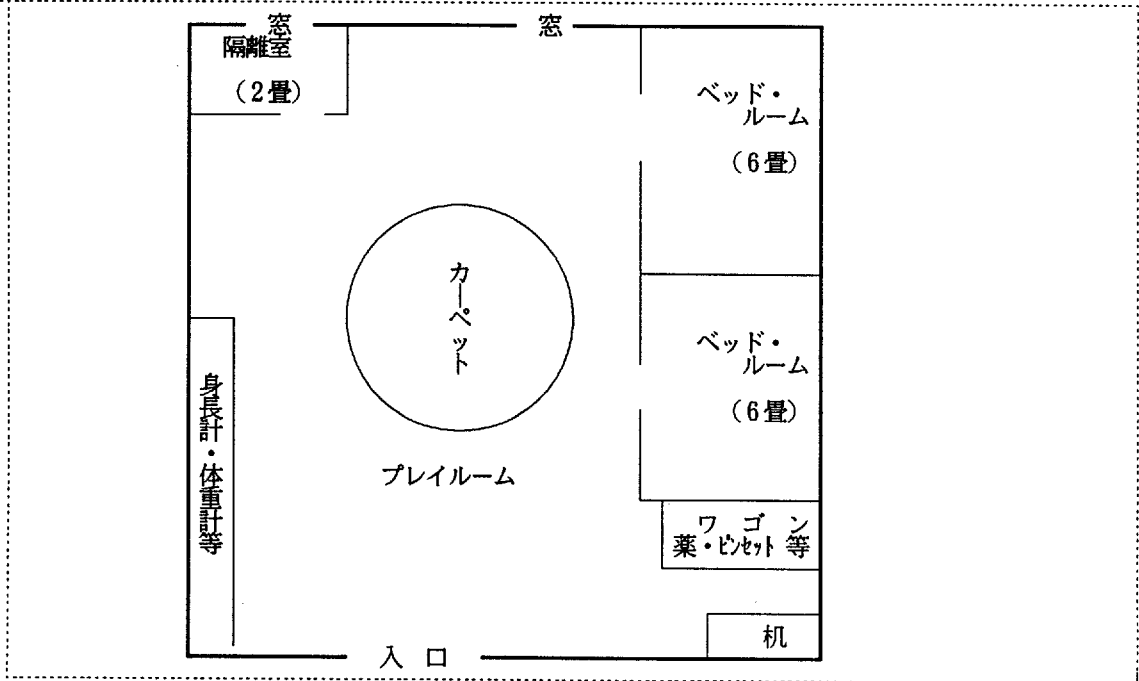
3. 設備整備

①空気清浄機

②冷暖房

③換気扇

4. 見取り図



資料⑧

病児デイケア施設平面図等

施設名 寝屋川病気明けつくし (単独型)

1. 施設

木造2階建て部分の1・2階

2. 施設整備

定員15人 (生後6カ月～ 5歳)

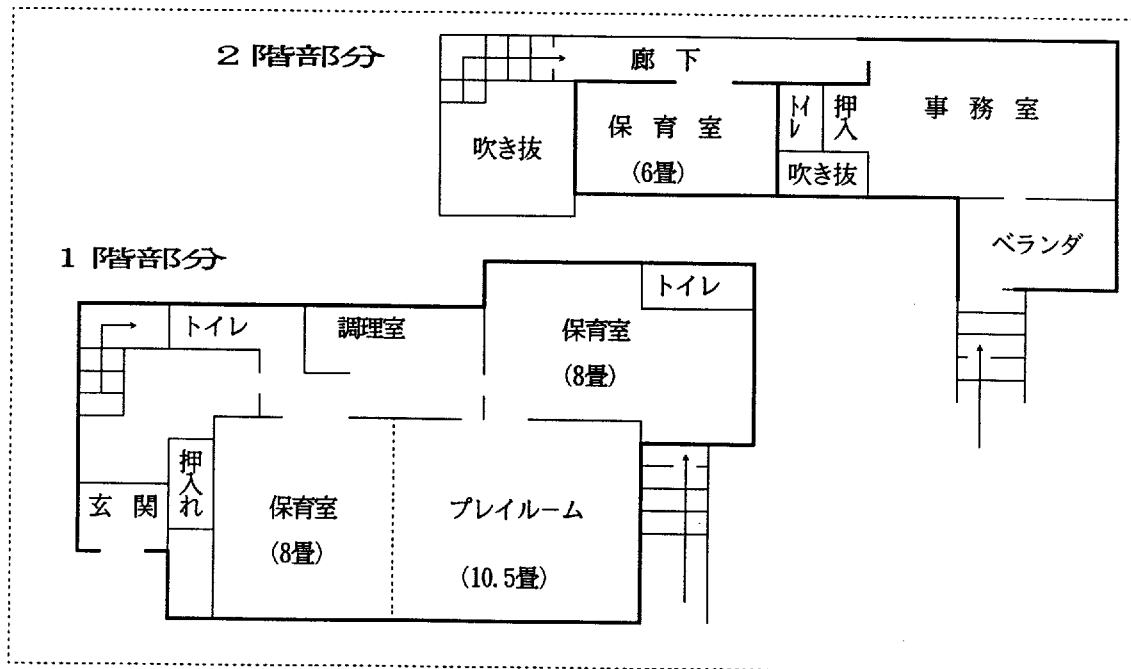
室名	面積	備考	室名	面積	備考
保育室	8畳×2室 6畳×1室 10.5畳	*寝室兼用	園庭		
プレイルーム					
子ども用トイレ					
職員用トイレ					
調理場					
事務室					
合計			合計	139.2㎡	

3. 設備整備

①冷暖房

②換気扇

4. 見取り図



資料⑨ 病児デイケア施設平面図等

施設名 なかよし園 (単独型)

1. 施設

鉄筋2階建て部分の2階

2. 施設整備

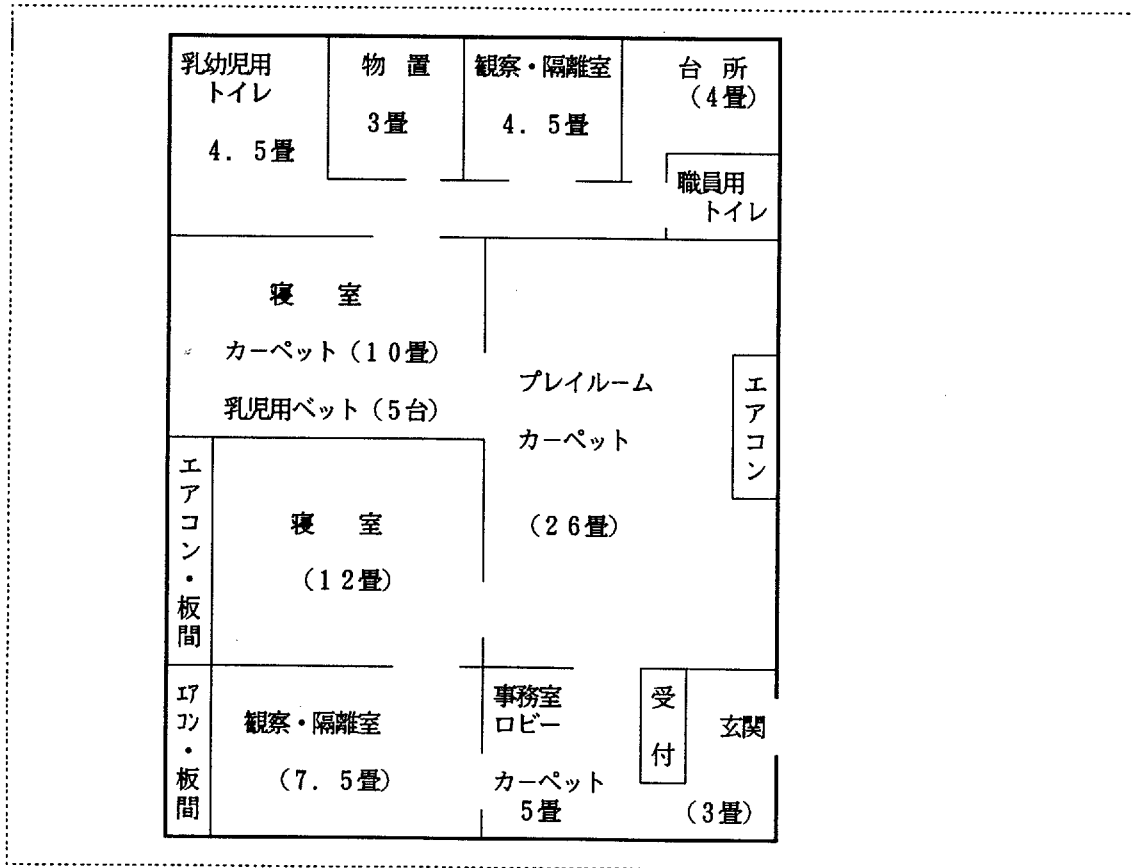
定員10人 (生後3カ月～ 6歳)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	和室12畳	カーペット10畳 (予備用)	受付	3畳	
プレイルーム	26畳		事務室	5畳	
観察・隔離室	7.5畳・4.5畳		物置	4.5畳	
子ども用トイレ	4.5畳				
職員用トイレ					
台所	4畳		合計	137.7㎡	

3. 設備整備

- ①冷暖房
- ②換気扇

4. 見取り図



資料⑩

病児デイケア施設平面図等

施設名 さくらんぼ病児保育室 (単独型)

1. 施設

鉄筋6階建て部分の6階

2. 施設整備

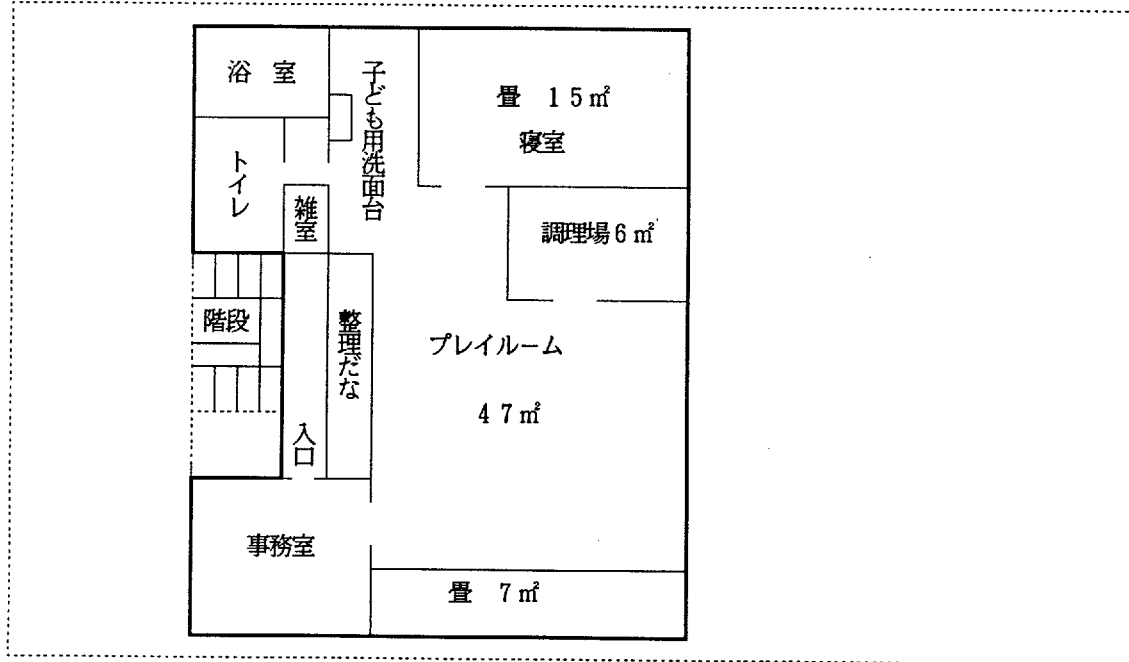
定員10人 (生後3カ月～小学3年)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	2.2㎡		雑用室	3.5㎡	
プレイルーム	4.7㎡				
調理場	6㎡				
こども用トイレ					
沐浴室					
事務室	10.5㎡				
			合計	約9.5㎡	

3. 設備整備

①冷暖房

4. 見取り図



資料①

病児デイケア施設平面図等

施設名 境病気明け保育所 (単独型)

1. 施設

木造2階建て部分の2階

2. 施設整備

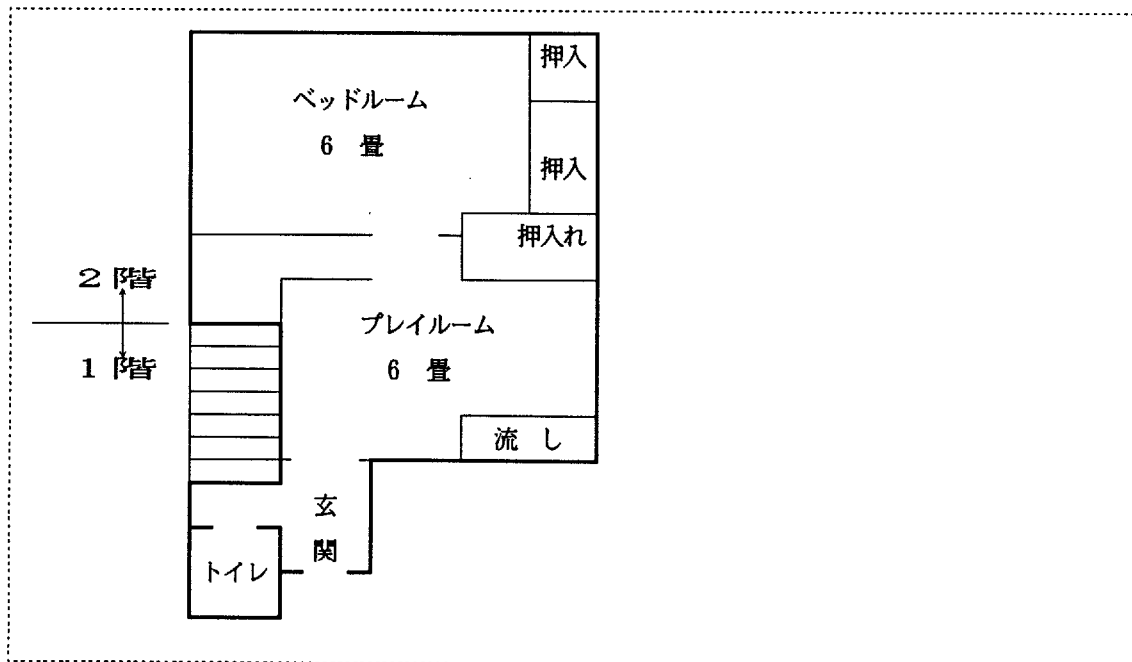
定員 4人 (生後2カ月～ 9歳)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	6畳×2室	(カイルーム兼用)			
トイレ					
			合計	23.1㎡	

3. 設備整備

①冷暖房

4. 見取り図



資料②

病児デイケア施設平面図等

施設名 病児予後保育室バンビ (保育所型)

1. 施設

鉄筋3階建て部分の1階

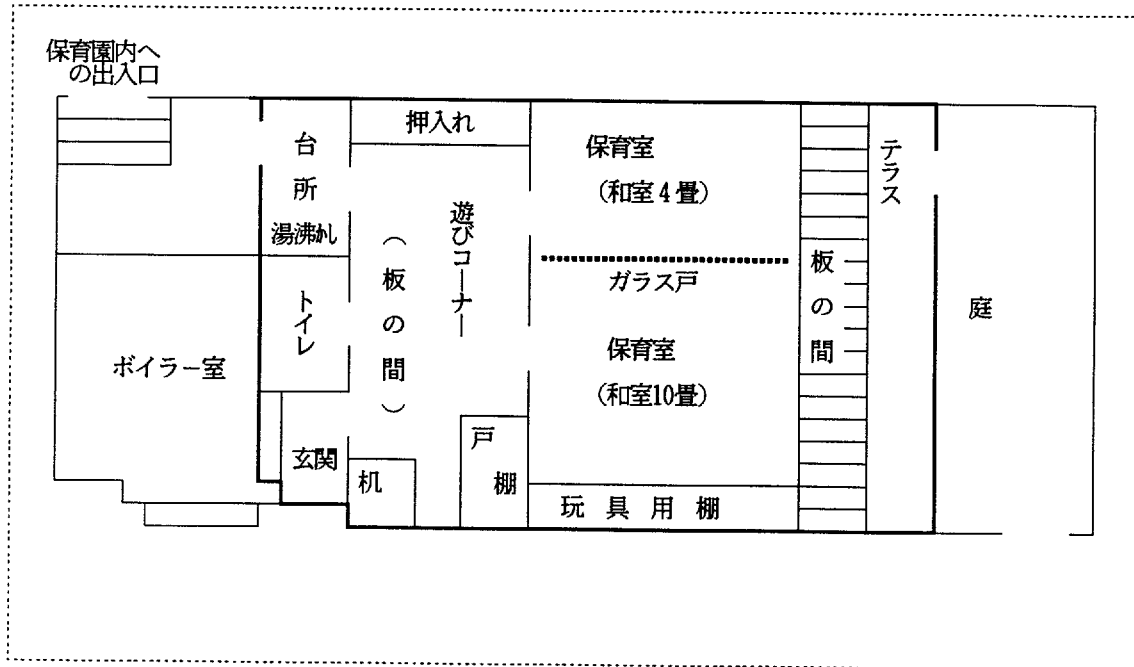
2. 施設整備

定員10人 (生後4カ月～ 6歳)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	和室4畳 和室10畳 洋室7畳  3畳 洋室の一部	*フルーム兼用	湯沸かし	66.879㎡	
食堂			洗濯コーナー		
子ども用トイレ					
職員用トイレ					
ベランダ					
事務コーナー					
合計					

3. 設備整備

4. 見取り図



## 資料③

## 病児デイケア施設平面図等

施設名 病気明け保育室どんぐり (保育所型)

## 1. 施設

鉄筋2階建て部分の1階

## 2. 施設整備

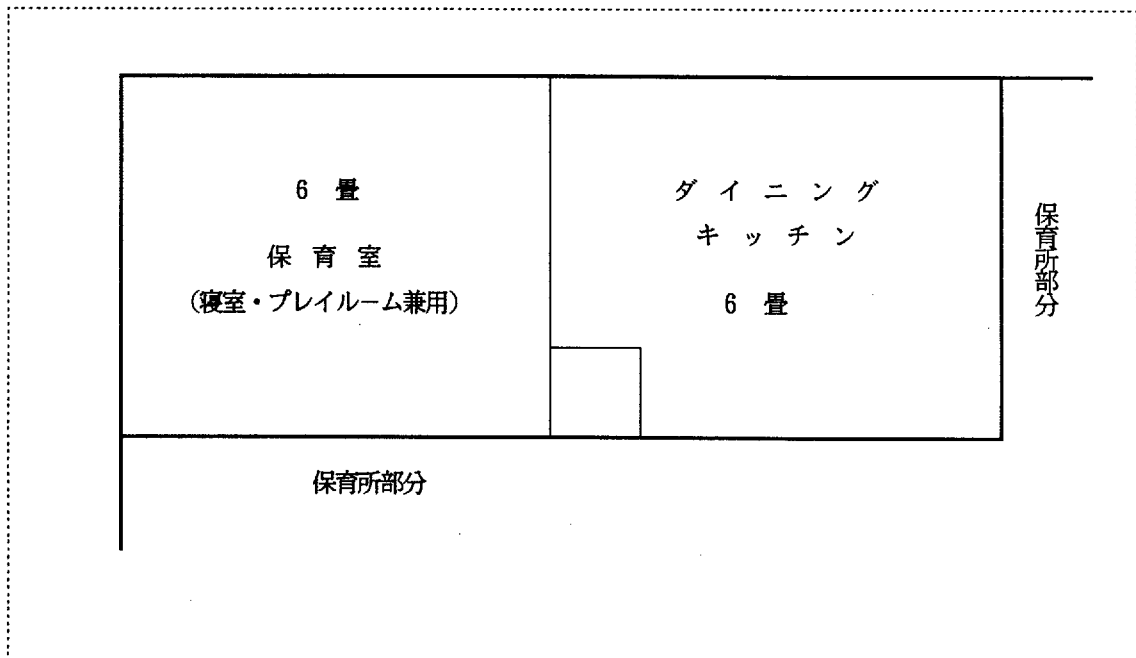
定員 3人 (生後6カ月～ 6歳)

室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	6畳	*カイルーム兼用			
ダイニング・キッチン	6畳				
註) 保育所併設					
			合計	19.8㎡	

## 3. 設備整備

## ①冷暖房

## 4. 見取り図





資料⑭

## 病児デイケア施設平面図等

施設名 病児保育室のんたん (保育所型)

### 1. 施設

鉄筋2階建て部分の2階

### 2. 施設整備

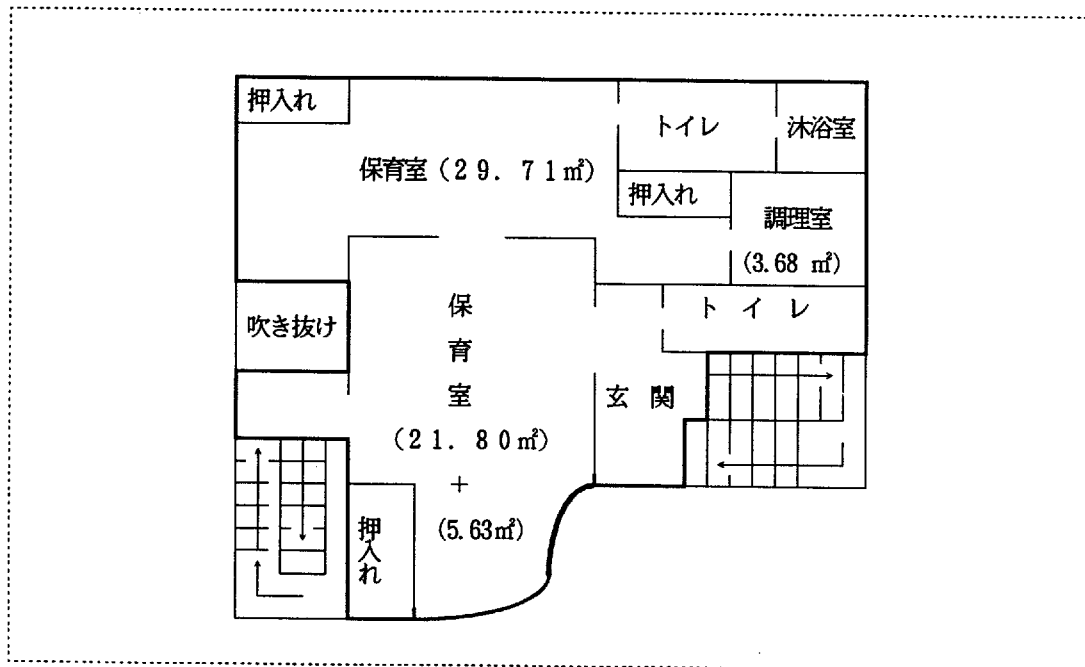
定員10人 (生後6カ月～ 6歳)

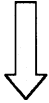
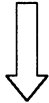
室名	面積	備考	室名	面積	備考
寝室	29.71㎡	*ホール兼用			
プレイルーム	21.80㎡				
調理室	3.68㎡				
子供用トイレ					
職員用トイレ					
沐浴室					
合計				90.0㎡	

### 3. 設備整備

①冷暖房

### 4. 見取り図



 **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用   
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

要約:

本研究においては、初年度の基礎的調査として既存の病児保育施設の施設構造、平成4年度における利用実態、病児デイケア施設の運営の三つの課題について検討を行った。

病児デイケア施設の施設構造については、既存の14施設の見取り図等を検討し、病児デイケア機能を有効に活用できるモデル設計図並びに設備、備品等について検討した結果を報告した。

平成4年度における利用実態については、平成4年度当初から開設していた15施設を対象に調査し、年間の利用実績としては14,934名、医療機関併設型にて約5割の実績があり、利用の季節的変動も認められた。

施設の運営面については、利用料、登録料等の事業収益、人件費等運営費について詳細な調査を行い運営費に占める事業収益、人件費の占める比率や利用児一人当たりの運営単価等について検討を行った。